

最終回を開催し、これまでの意見交換の まとめを行いました！

雑賀崎・田野・和歌浦地区の景観まちづくりをどのように進めていくか、について話し合う景観まちづくりワークショップの第9回（最終回）を、7月21日（土）に和歌山市勤労者総合センターで開催しました。

前回に引き続き、「まちの姿や目標について考えるグループ」と「活動の場づくりを考えるグループ」に分かれて、それぞれより具体的に掘り下げていき、これまで出た意見のまとめを行いました。



ワークショップのプログラム等の説明

はじめに、都市整備課の中西課長からあいさつを行いました。

- ・これまで、色々な意見を出していただき、予想以上に活発な意見交換となりました。
- ・今後はご意見をもとに、景観重点地区指定に向けて市で検討を行っていきます。地元の方々への説明会で共有したり、またみなさんに詳しいご意見を伺ったりしていく段階に入ります。
- ・ワークショップとしては今回で一区切りつきますが、せっかく熱心なみなさんにお集まりいただいている会なので、このまま発展的に継続していければと考えています。地域での生活の中では様々な想いや困りごとがあると思います。その中でも「地域の価値を高める」ためには、「景観」もかなり重要な要素です。景観を「守る」ことは行政にもできますが、その良い景観を「活かす」のは地域のみなさんや活動を実践されているみなさんの力が大きいと思っています。みなさんの景観まちづくりに積極的に協力していきたいと思っていますので、これからもよろしくをお願いします。

続いて、事務局よりこれまで出た意見を整理してまとめた資料について、説明がありました。その後、ワークショップの全体コーディネーターの下村 泰彦先生からお話を頂きました。

- ・今後、いい再スタートを切ることができるように、今日は押さえるべきところを押さえて話し合っただけだと思います。
- ・まちの姿や目標については、意見が充実してきていますので、その中でも特に重要な項目を見極めるなど、大事なポイントを押さえておさらいしていただきたいと思います。景観重点地区指定に向け、もらしてはならないところを確認していただきたいと思います。
- ・活動の場づくりを考えるグループの方では、すでにみなさん様々な活動をしていらっしゃる

ますので、まちの目標の実現に向かって、これまでやっていなかった活動が始まったり、また活動同士がつながって新たな分野がカバーされたりするために、発展的な話し合いをしていただきたいと思います。

ワークショップ

参加者が2つの班に分かれて、それぞれのグループ毎に話し合いました。

「まちの姿や目標を考えるグループ」：A班

大道さん、唐門さん、池田さん、山野さん、松本さん、前田さん、松川さん、中井さん、青山さん、藤本さん、（小嶋さん、西山さん、前田さん）

第8回に話し合った、景観上重要な場所や視点場と必要なルールについて、より具体的に掘り下げて話し合いました。

●和歌浦地区

○御手洗池前の交差点付近

- ・海岸通りとあしべ通りの交わる場所（御手洗池前の交差点）は、和歌の浦に入ってくる玄関口であり、かつ景観上主要なルートであるあしべ通りと交わる場所で、重要な場所。
- ・実際は車が多くて歩行者も自動車も通りにくくなっており、交差点として接続（流れ）がよくない。交差点に接して三角地（私有地）があり、その空間の使いみちによっては改善される可能性がある。

- ・景観重点地区の中でも重要な場所として明確に位置付けをしておく、整備もいつかできる可能性がある。

○干潟とその周りの景観

- ・海水浴場にも近いため、にぎやかな色も許容することができるような気もする。
- ・ただし、アートキューブ前を通る干潟を取り囲む県道は、歩道も整備されており、歩く人にとっても住民にとっても大切な場所である。
- ・片男波と一体になった、歴史的に重要な場所でもあるため、公共性も高い。
- ・景観上重要な場所に位置付けておく必要がある。また、不老橋を経由して、あしべ通りと連続した一体の軸として捉える必要がある。

●新和歌浦地区

○廃業した旅館跡



- ・片男波の方から見た時に廃屋が目に入ってくる。
- ・すぐに撤去というのはなかなか難しいかもしれない。ただし、今後同じような状態になる施設も出てくる可能性があるため、そうならないようにルールを決めておくなど、事前に手が打てないか。行政としてじっくり検討してみてほしい。

● 田野・雑賀崎地区

○ 眺望のためのルール

- ・これまで、観光のために開発が行われ、それが皮肉にも景観を阻害する結果になっているものが見られる。例えば、海からの景観として大切な鷹の巣の崖付近など。
- ・このようなことが繰り返されないように、建物や設備が更新される際によりよいものになるよう、長い目で見て効果を発揮するルールが必要。
- ・視点場として重要な県道沿いなどでは今後も建物が立地するかもしれないので、眺めを確保するよう配慮してもらえるようなルールなどが必要。

○ 空き家への入居等に対するアイデア

- ・地区の課題として空き家の増加が挙げられる。例えば、学生と一緒に住んで、どんな家が魅力的で住みたくなるかを考えてみるのもおもしろい。
- ・ただし、現在も地区外から入居している例もあるが、地域のルールが浸透しにくいなどの問題も散見されるので、十分注意が必要。

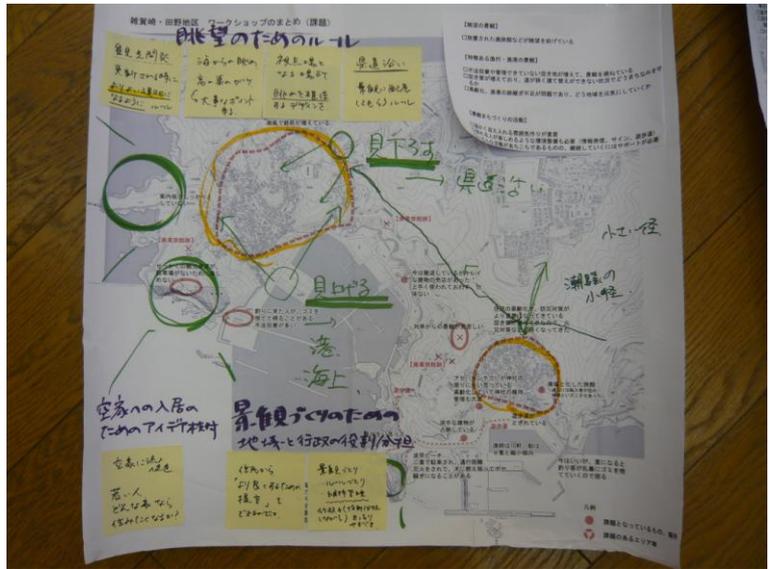
● 地域全体で共通して言えること

○ 景観づくりのための地域と行政の役割分担

- ・行政の主要な役割としては、景観を守る/つくるの他に、維持管理する、もあるはず。景観上重要な場所付近の公有地などでは特に、草木などの適切な維持管理をしてもらいたい。またそれが難しい場合は、地域も協力できることがあるかもしれないので、調整や協議をする姿勢を持ってもらいたい。

○ ルールの管理を地域も一緒に

- ・ルールをつくりっぱなしでその後あまり役に立たないということがあっては困る。行政として、ルールが守られているかチェック体制を整えることも必要。ルールの実行性を高めるには地域も目を光らせておくのが効果的。
- ・地区内で建築の申請があった場合には、顔見知りの関係だとなかなか反対意見はしにくいですが、その建物が景観により調和するように「より良くする」ためのアドバイスはできるのではないかと。言い方や姿勢が大切。このような仕組みについては今後検討していく必要がある。



「活動の場づくりについて考えるグループ」：B班

松井さん、林さん、土山さん、中口さん、松本さん、宮下さん、堀畑さん、茶畑さん、赤土さん
(中西さん、中野さん、前田さん)

第8回の話し合いに引き続き、くらしの視点・生活者の視点を中心に、この地域で何をする必要があるか、今後の進め方などについて話し合いました。

●身の回りをきれいにする

- ・市町川の廃船の問題。行政の働きかけもあったようだが、解決していない。
→廃旅館と同じ。所有者が撤去してくれるのを待っている。
- ・市町川、だいぶきれいになったが、観光客が通るのにまだまだきかない。
→ヘドロの撤去、県が動いてくれない
- ・網代浜周辺、流木が放置されている。
→今までも清掃活動はしてきた。車が入れないところは掃除が難しい。
- ・清掃活動をしようとしても、管理者に許可をとらないといけず、色々なところをたらい回しにされて、なかなか動けない。

●交流の場、情報交換の場が必要

- ・地域の団体やグループの連絡会があればよい。
- ・和歌の浦には、他の地域と比べても素晴らしい団体がたくさんある。
- ・活動をしている人・団体はいるが、先頭に立つ人(リーダー)がいない。
- ・これからが大切(そのためにもプラットフォーム的な場が必要)。
- ・和歌の浦全体としてHPやブログを活用しながら情報を発信していければ。
- ・あまり否定的な話ばかりせず、現在の取り組みでも良い部分がたくさんある。その肯定的なところを強調して、皆が楽しく活動できるようにしていければ良い。

●様々な年代(特に子ども)に啓発、PR

- ・今後の活動目的、ターゲットとしてはいかに様々な年代を巻き込むか。(特に子ども)
例 写生大会、子どもを対象としたまちあるきをして子どもに地域の魅力を感じてもらおう。
ひがた倶楽部の取り組みと一緒に何かコラボが出来たら…
- ・市民の愛着の高い和歌の浦のネタを教材化し、学校で和歌の浦について学んでもらえば、子ども達も和歌の浦に関心を持つのでは。

●今後の進め方

- ・どうしても観光の話にシフトしがちであったが、当事者がいないなかで話をして絵に描いた餅になる。参加を呼び掛けても参加してくれないのであれば、その辺を見極めて、生活者の視点に絞って話をして良かったかもしれない。
- ・今回は、観光に関連する人が参加されなかったが、個別にヒアリングをしてこういった意見に対してどのように考えているかを聞いてはどうか。
- ・この地域では、「観光」と「まちの活性化」は切るに切れない関係がある。そういう意味で両者の協力は必要不可欠である。

- ・我々地域に対しては、「それぞれの主体・団体が連携して…」と言うのだから、行政も縦割りでなく横断的で協力して、この地域の活性化に協力してほしい。
- ・結局、今回のワークショップで分かったのは、ルールづくりだけでは地域は良くならないということ。そのため、平行して地域で出来ることは地域でやっていくしかない。
- ・今回出された意見を踏まえて、「地域」と「行政」の役割分担をしていく必要がある。そういう話をするためにも情報交換の場が必要かもしれない。

発表／参加者から一言ずつ感想

今回話し合った内容を発表し、内容を共有しました。その上で、参加者のみなさん全員から一言ずつ、感想を述べていただきました。

(感想の概要)

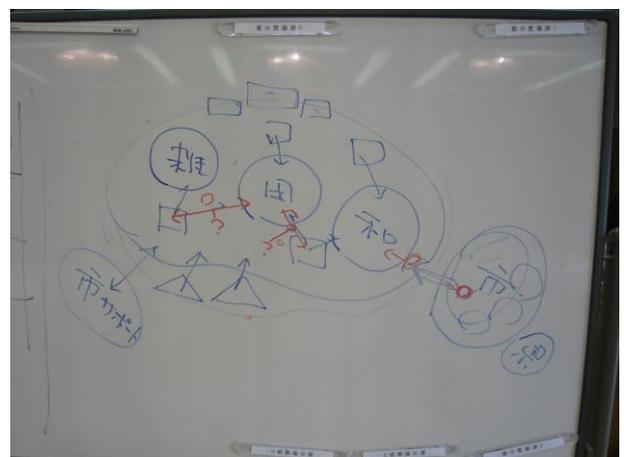
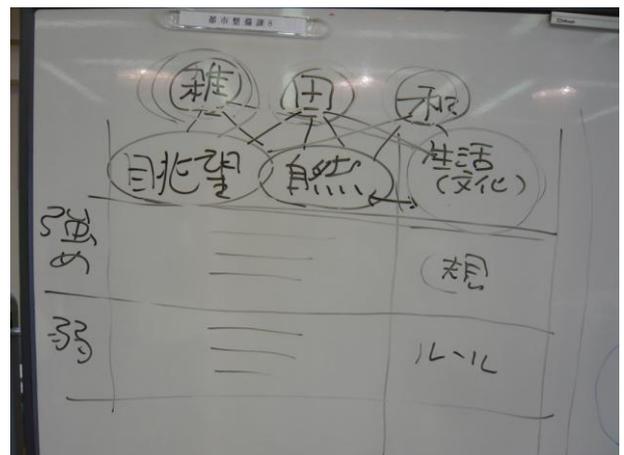
- ・これまで漠然と参加してきたが、第9回で最終回の今日、自分も当事者なんだと実感が湧いた。自分でできることを考えてやっていきたい。
- ・回を重ねるごとに、何をめざしてやっているのかが少しずつ理解できてきた。これからも続けて行かなあかんと思った。
- ・いろんな意見があるが、住んでいる人が幸せになることが最も重要。そうなるよう取り組んでいきたい。
- ・和歌の浦にほれ込んでずっと活動してきた。これからも、魅力を伝える活動を続けていきたい。
- ・景観まちづくりの話し合いをしてきたが、具体的なイメージはまだ抱けていない。これからもっと「こんなことしましょうよ！」という具体的な活動イメージを共有していきたい。
- ・ずっとボランティア活動をしてきたが、規則はあるが役に立っていないという場面によく出くわした。このルールも形骸化しないようにしてもらいたい。
- ・このワークショップが、地域の問題をみんなで解決していくきっかけになってくれればいいと思った。
- ・これまでは総論的に意見を述べてきた。これからは各論に入っていくので、色々な意見がばらばらと出てくると思う。大変だが、地区の枠を超えて一緒にやっていきたい。
- ・地域でがんばっている、すごい面々が集まってきている。オールスターは集まっているので、あとは舵取りをする監督が大事。
- ・これまでの行政とのやりとりは、「陳情」になることが多くて一方的だった。こういうフラットな「意見交換」の場の方が有意義。是非こういう形で他の政策も進めてもらえればありがたい。
- ・地域の住民や活動している人がプラットフォームを作ろうとしているので、行政も縦割りにならないよう気をつけてほしい。
- ・行政の現場でのやりとりなどが見られて、いい経験になった。
- ・4月に行政のメンバーが交代した。重要なプロジェクトをしているとこちらは思っているので、戸惑いがある。

- ・せっかく何度も集まって話し合ってきたので、それが無駄にならないような形にしたい。行政も真剣に取り組んでもらいたい。
- ・「景観」は地区の枠や行政と地区との距離を超える、共通言語になるもの。これを核に取り組んで行きたい。
- ・良いものは受け継ぎ、改善が必要なものは良くする努力をする、そのためにこの会は大切だと思うので、続けていきたいと思っている。

下村先生によるコメント

下村先生から総括のコメントを頂きました。

- ・全体的には「市民もがんばるから、市もがんばろうね」という思いが伝わってきました。
- ・地域ごとに、歴史も生活スタイルも異なります。ルールを考えて行く際には地域の特徴を考慮して、「眺望/自然/生活」の3つのカテゴリーに対して、景観が果たす重要度という面から「強め/弱め」と、ルールの強弱をつけて、つかいやすいルールづくりをすればいいのではないのでしょうか（右写真上）。
- ・活動には、外部の人が参加しやすい状態にするためにも、何らかの場が必要だと感じました。押したり引いたりしているだけでは前に進みませんので、エイヤ！で中心となる方を決めてしまって、とにかくやれるところからやってははどうでしょう。無理やりみんなで始めるより、やりたい人だけでも良いので、とりあえず始めてみるのが大切だと思います（右写真下）。
- ・和歌の浦は大切な場所ですので、私もみなさんのがんばりに対して何かできることがあれば協力させてもらえればと思っています。



今後に向けて

最後に、市の中西課長から、ワークショップ最終回のお礼と、今後の進め方について説明がありました。

- ・ルールづくりについては、みなさんに出していただいた意見を考慮しながら、景観重点地区の指定に向けて市で検討を行います。皆さんにはもう一度か二度、ご意見を伺うことになりそうですので、その際にはどうぞよろしくお願いいたします。
- ・景観まちづくりについては、これから盛り上がっていくことを期待しています。その中核になる

のは、今日来てくださっているみなさんだと思います。また何らかの場ができれば、地区の景観について考えてもらうなどの役割（ミッション）を担ってもらう方が、より盛り上がる・やりがいのある場になるかもしれません。

- ・市はみなさんの景観まちづくりを応援します。みなさんも一緒にやりましょう。

今回のワークショップの様子は、毎日新聞にも取り上げられました！！

●事務局・問い合わせ先

和歌山市 まちづくり局 都市計画部 都市整備課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地

Tel : 073-435-1082 Fax : 073-435-1367 E-mail : toshiseibi@city.wakayama.lg.jp